



早いもので10月をむかえました。  
秋は毎日に深まりを見せてくれます。こどもたちの活動を、毎日に  
屋外から園舎の中へと移りはじめます。  
登降園の際に使うフリースのジャンパーとか、毛糸の帽子など、家庭でも  
冬仕たいに仕替わります。どうぞよろしくおねがいいたします。

■コロナ対策として、こどもたちの毎日の生活  
に制約をしてきました。  
今年は3年目をむかえ、国の対策も効果を  
挙げております。  
この4月から、少しずつ制約を緩和して  
来ました。

こどもたちのあそびの面でも大きな  
育ちがある「ホール」と「園庭」を  
コロナ以前に戻して、どの子ども  
自由にあそべるように、9月の  
後半から実施しております。

大変なにぎわいです。  
年令がたての喜び！  
きょうだいであそべる喜び！  
これまでと違った楽しさと喜びが  
ホールと園庭にあふれるようになって



きました。  
当然、年少児たちは、年中児や年長児  
たちのあそびのひとつひとつに大きな  
刺激を受けるし、これが**みんな**とたちと  
その仲間入りです。

「面倒見が悪い」「面倒見がわるい」  
と言う育ち合う**自給自足**のひとつの  
場面があちこちで！

■園庭の芝生の刈りかさを上手に  
使ったこどもたち、倒れ転ぶか立ちの  
レベルUPに大きな効果がありました。

こんな光景もありました。  
ちゅうりっぷ組のデッキに集まった10人ほどの  
年中組の女の子たち、丸く輪になって、両手に  
水筒！  
「いち、いのカッパ〜い！！」と**おたけ**の  
声をあげてゴクゴク！！びっくりしました！

## (心の育ちシリーズ) 栄養のある言葉を こどもに！

小学生の兄弟が不引きで補導された。連絡を受けた福岡警察署の少年係安永智美  
警察官が面会した。兄弟は常習犯で父親の指示だった。父親は逮捕され、兄弟は児童  
相談所に保護された。兄は安永さんにもみつけ、弟は泣きだしていた。

安永さんにも二人の息子が居た。「あの子たちの笑顔が見たい」と思い続けて3ヶ月が過ぎた。

ある日、息子たちがカガト虫に夢中だった。無断でカガト虫を一匹取り出していそいで児童施設  
へ行った。

「すげえ！」「すげえ！」と二人ははじめて笑顔を見せた。安永さんはこの約束をさせた。  
カガト虫の世話と仲間を見せてと言ったら見せてあげることを。

2週間後、施設へ行くと二人は見方が変わった。カガト虫の世話と仲間を見せて  
あげることを職員から「えらいねえ！」とほめられ、仲間から「ありがとう！」と今まで  
言われたことが無い言葉を沢山とらっていた。

安永さんは どんな子にも説教をしない。  
絶対に 言っちゃいけない言葉があると言う。

「いりまで泣いているの！」

「そうお姉ちゃんだから そんなことで泣かないの！！」

こどもには 栄養のある言葉をあげたいですね

- みやざき中央新聞より -